

大軍を熱河に集め 積極的抗日に出づ

馮庸三万五千の偽勇

(錦州二十三日發聯合)張學良は今回馮庸を偽勇軍第三軍團長に任命し高射砲機關銃を支給し凌源に出動、去る十九日承德に入つた騎兵第九旅と密接なる連絡をとり積極的抗日工作に出づべく命令を下したので馮庸は三万五千の大軍を率ゐる續々熱河に前進してゐる、これがため奉天熱河省境の空氣は俄然緊張するに至つた

勇士も地下に満足する

力強い國民の後援

遺骨は花輪に埋まる

今次涙で迎へた十一勇士の遺骨はハイラルから奉天を経て大連についた際市主催の慰靈祭は頗る盛大なもので花輪だけでも三、四十個に達した、全く大連出發當時から勇士の遺骨は花輪に包まれて凱旋したものである

勇士・干場上

英靈永久の

來樽の

船が神戸に着くや神戸、大阪、京都、名古屋、福岡、豊橋を経て東京に着いたが各驛とも出迎へ者が満員の盛況であつた、殊に東京では陸軍大臣、參謀總長官代理、各師團長、府知事、内山大將その他朝野の名士多數の出迎へをうけ、遺では安田留守師團長、知事、控訴院長その他の代表盛岡で騎兵旅團長、知事、青森では留守五聯隊長、職隊區司令官その他多數の人

お賽銭が 雨のやうに降り合計三十余圓に達した、驛館に上陸し時間の關係で少憩したがこの僅かの休憩中三十五圓の赤銅貨のおさい銭があつた、従つて護衛指揮小林中尉は神戸上陸以來旭川着まで三日三晩殆ど一睡もしない、又た大畠政勝曹長の殿父は神戶まで出迎へたが各地で熱情あふる、ばかりの同情を注がれたのに感激し自分にはなほ四人の伴がある全部を國家に捧げても残り惜い事はないと

昨年九月北嶺の精兵服部〇團に屬し勇躍陣難に出動した小樽市出身の歩兵上等兵干場清君は十月七日奉天附近において歩哨に勤務中便衣襲撃をうけ名譽の戦死をとげたがこの勇士の遺骨は二十三日第〇師團から遺族へ交附され同夜は花園町會事務所で市、分會一般市民の心からなる通夜を取り営まれたが本葬は二十四日午前十一時から執行された町會事務所では午前十一時岡崎勲徳寺住職導師となり數名の僧侶により遺骨が初まれば祭壇には同君の寫眞、兩陛下より御下賜の祭

亡き戦友に

感激の護衛

全快した石橋一等兵

奉天附近

十一勇士の遺骨を護衛して來た兵隊さんの中に本道上磯郡木古内村

中敵弾のために腹部より背を打貫

行役で奉天の傷成た彈は腹から背をるから軍醫の手にかり切斷縫合の

石橋一等兵は命運

二十七日前十時所において岩内郡イ佐々木喜衛門作人が地主三川吉水害凶作を原因とたり五斗五升納入齋藤軍平の調停に

發足

大手術

る大手術をうけながら薄紙を
やうにメキ／＼回復した今回
にも遺骨護衛の任務を帯び戻
戻つたそして戦友と抱き合つ
いた自分は戦友に遺骨となつ
てられることを悟つたのに不
感に助つて戦友の遺骨を送るこ
逆縁を語つた全く感概無量だ
たらう歸郷の途次二十三日木古
の實家に立寄り無事な姿を見せ
しく出された

病兵二名歸る

の服部○團病兵二名は二十七
日、家へ送還さるゝが所屬及び氏
は判明せぬ

作爭議

二度目の公判

と折合つたが其後兩氏が小
全納せぬ處から地主三川氏か
十二月限り小作契約解除方を要
した處小作人側は之に應せず十
二月七日札幌區裁判を申請
るが今回で第三回の公判である

見事に並んだ廿一光頭

マダネシユームも不要

蛇の目も明るい勢揃ひ

さん然として輝く小樽第二回光
頭大會は二十三日午後六時から花
園町蛇の目で催された。大寒――
零下十幾度――でも會場は

ハゲ光て百度

以上。百花爛まんとして今にも
咲かんばかりの暑さだ。ハゲ自慢
の面々がズラリ並ぶところ、あ
たかも薬罐屋の店開き、いづれも
自信を傷つけられたくないといふ
顔をしてすまし込んでゐるのがお
かしい。そのなかには會長の伴高
商校長、幹事長大西慎二、小笠原
ドクトル、一昨年の優勝ハゲ海軍
協同會の細峰さんなども混つてゐ
る出席者は事故不參多數あつて僅
に二十一頭

卅二歳の若冠

から八十歳の老人もゐた。會場
の中央には「月も日もアツト驚く
今日の會」なんて句が大書されて



光頭大會にふさわしい景氣がわい
てゐる。「ハゲメ／＼」の祝電に、
各選手薬罐頭をピカ／＼させて各

旗の次ぎには菊谷上等兵憲眞を選
骨は凱旋せる勝又上等兵持持し山
口町會長、館脇分會長遺族、佐藤
二十六聯隊長高田附館職區司令
宮深草中佐、北田少佐外各八職、
各團體代表者一般市民等で番徳寺

會長、高田支部長、佐藤廿六聯
隊長ほか各團體、軍部關係、愛
婦、軍人後援會、町會代表者の
用詞あり
香煙縷々として立上り勇躍して出
動した當時を追思し新たなる涙に
むせんだが三時過ぎいと盛大に終

自定めの席につく。審査員は地元
前東京の各新聞記者選、審査方法
は五十歳以上、同以下に二分光澤
面積、形態の三つにわけて採点を
開始――みわたせば、島ハゲ、霞
ハゲ、ペロハゲその他の

種類さまざま

あまりのまぶしさに記者連も目
がくらむ。ある選手が審査中に
「あなた油をお持ちになりません
か」
と隣の選手にこつそり耳打ち
「持つてませんが塗るんですか」
「ちよいと、その……」
「いけませんよ、インチキは」
その選手ハゲ頭をなでまはしなが
ら

朗らかな笑聲

が場外にあふれる。審査の結果が
発表された。各選手緊張して耳を
傾ける
▲青年組(五十才以下)一等一六
七〇點海軍協同會小樽出張所長
鶴峰元吉、二等一五〇五點直江
津汽船常務取締役内山政一郎、
三等一三六八點大浦丸船長石井
松壽

小谷運動具店から發火した火災原因
は、因は札置署で詳細取調べたところ
同店主瀧治實弟小谷周市(三三)が廿
一日工場のモーター係佐々木菊太
郎に仕事を手傳はしめ自己がモ
ーターを取扱ひ中午後五時頃送電が
断たれ自然消滅となつたものを不

▲老人組(五十歳以上)一等一六
〇五點八十歳の最年長者菊地初
三郎、二等一六〇〇點船主協會
書記長高谷健吉、三等一三七八



町内でも評判
なんだがどが悪い」などと抗
議を申込むもの出で一同腹を抱え
て散會したのは午後十時すぎであ
つた(眞實は勢揃ひと(下)右青年
組一等鶴峰さん、左老人組菊地さ
んの超光頭ぶり)

南濱町繫留大 船の火事

二十三日午後十時三十分小樽市南
濱町五丁目運河繫留中の一印運送
株式會社所有大船のストープより
發火消防出動して消止めたが積載
中の密豌豆五十袋燻失濡損七十袋
余あり損害約二千圓以上の見込で
ある

津輕丸船客の 投身自殺

函館堀川町の女
二十四日午前零時函館出帆の津輕丸
運送第六便津輕丸が航行中午前二
時頃前部三等室の乗客一名行方不
明となつたので取調べたが遂に見
當たらなかつた右は船客名簿によ
り函館市堀川町十八番地宮下チヨ
(三三)と判明したが遺留品には函館
上野間の三等乗車券現金九圓三十
二銭在中の財布、角巻、衣類、み
やげ物、下駄などあり覺悟の自殺
らしいと

小樽ゴムの小火

二十四日午前九時半小樽市奥澤町六ノ
五小樽ゴム工場野野三郎方で雇
人が油を溶解中引火天井裏約一坪
焼失したが消防出動して消止む

仲仕の盗み

函館港内沖
仲仕久永勇(三三)高橋友四郎(四三)濱
本源次(二〇)鈴木是也(三五)の四名は
二十二日午前二時頃仲濱町竹越金
作の馬車船に乗り九二、宮崎運漕

出張所又ハバ

各出張所又ハバ
地券小資本利益多
大談照會モ可札幌市南
目電話一二三六番私設

文部大臣認

道海協立自動
札幌市中ノ島北海道
場内

和洋

業寄宿
テ呈ス
公認

よろづつ知

三行一回壹圓五拾錢
一行を増す毎に五拾錢
同改三回以上
同引七回以上
求職は特に年額
姓名在社署名は毎回廿

女給

數名 美しき
札幌北西五 カフエ

若者入用

本入
入舟町五丁目

簿記

心得ある
五六才本人願
小樽前電三八〇番

専

各出張所又ハバ
地券小資本利益多
大談照會モ可札幌市南
目電話一二三六番私設

文部大臣認

道海協立自動
札幌市中ノ島北海道
場内

和洋

業寄宿
テ呈ス
公認

かみゆひ

成
送本公認
道唯一

和洋

業寄宿
テ呈ス
公認

和洋

業寄宿
テ呈ス
公認

和洋

業寄宿
テ呈ス
公認

和洋

業寄宿
テ呈ス
公認

和洋

業寄宿
テ呈ス
公認